

わおん 通信

2020
秋号
vol.38



特集1

地域で集まり 続ける力 ②

県内各地の活動 これまでとこれから

特集2

SDGsを体験する

P6

県情報

「大塔山県立自然公園」誕生
南紀熊野ジオパークセンター展示内容をリニューアル

推進員 精ちゃんの
ああしたら こうなった 6 (最終回)

P7

推進員さん訪問記^③

なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

CONTENTS

P2 — P3

地域で集まり 続ける力②

県内各地の活動 これまでとこれから

紀南エコネット
ストップ温暖化岩出の会

P4 — P5

SDGsを体験する

SDGsカードゲームとは
イシューマップを作ろう! in那智勝浦町体育文化会館
2030SDGsカードゲームin御坊市中央公民館
SDGs de 地方創生in田辺市民総合センター

和歌浦小学校が環境大臣賞を受賞

特集

地域で集まり 続ける力 ②

県内各地の活動 これまでとこれから

2005年、和歌山県で地球温暖化防止活動が本格的にスタートしました。これまでに地球温暖化防止のため、協議会や推進員グループが6つ発足し、活動を続けています。前回に引き続き、それぞれの協議会、グループがこれまでの活動とこれからの取り組みを紹介します。



市民ふれあい祭り



薪ストーブ活用に向けて汗をかく

エコネット 紀南

紀南地域地球温暖化対策協議会（愛称 エコネット紀南）は2007年5月に発足し、現在は15人で活動しています。会員には、地球温暖化防止活動推進員のほか、紀南の豊かな自然を大切にしている活動をしている方も多く加わっていただき、意見交換しながら活動しています。

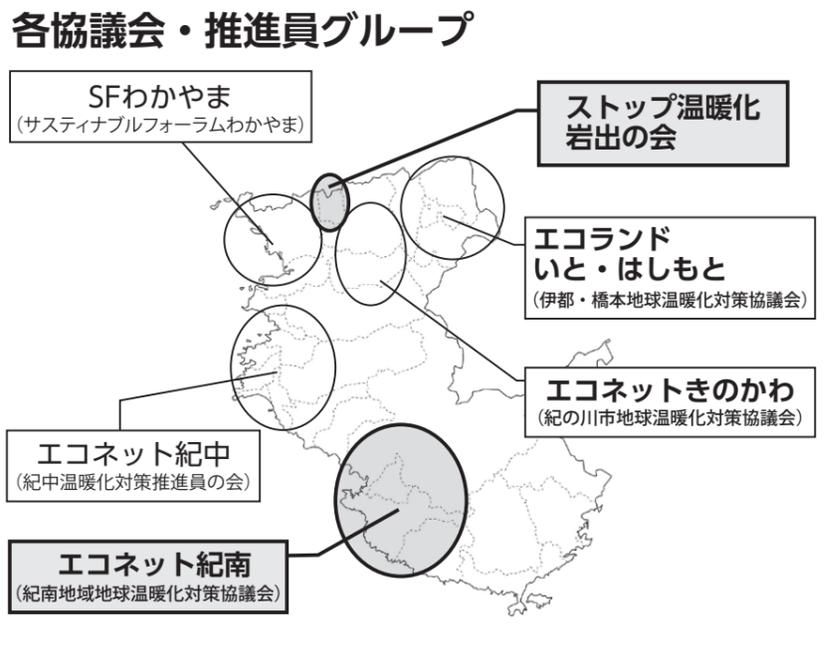
「木質バイオマスの普及、持続可能な地域づくりを」
目指して
紀南地域には、豊富な木質バイオマス資源、つまり森林資源が存在しています。この森林資源を守り、育て、活用することが、紀南地域の環境保全につながる。木質バイオマスの普及に取り組むきっかけとなったのは、森林保全の勉強のために植樹活動をしている団体のお手伝いをしたことでした。地域の山林に

「様々なイベントの開催」
当協議会の活動は、木質バイオマス（※）の普及に関わることを中心で、それ以外にも、環境に関する様々な学習会を開催したり、他地域のイベントに参加したりと幅広く活動しています。2011年8月には滋賀県の「菜の花プロジェクト」の山田美さんを招き、「市民共同発電」の学習会を開催しました。2012年6月には白浜町主催の「ごみと環境フェア」にて、地球温暖化の現状や環境家計簿カレンダリーの説明などを行いました。また、2013年には「自然エネルギーで地域を活性化」と題して、環境エネルギーコンサルタントを招いた学習会を開催し、遊休地を利用したミニソーラー発電について学びました。そして、2017年からは「おもしろ環境まつり」に参加し、毎年ロケッ

トストーブを出展し、木質バイオマスの普及活動に取り組んでいます。
紀南地域には、豊富な木質バイオマス資源、つまり森林資源が存在しています。この森林資源を守り、育て、活用することが、紀南地域の環境保全につながる。木質バイオマスの普及に取り組むきっかけとなったのは、森林保全の勉強のために植樹活動をしている団体のお手伝いをしたことでした。地域の山林に

「それぞれが個性を持って」
紀南地域の推進員は、それぞれの得意分野をいかして活動を行っています。防災士の資格を持つ方は、地域の交流の場で子供たちとその保護者、地域の方とともに防災教育を楽しく実施しています。退職後、海外ボランティアとして外国の地でごみ問題に取り組んだ方、早期退職して温暖化防止活動とともに地域づくりに貢献しようとして活動している方もいます。ほかにも、先に紹介した製炭作業ですっかり

「紀南地域のこれから」
現在、推進員として活動する仲間を増やそうと、いろんな方に一生懸命働きかけています。その甲斐あって、最近では梅農家や議員の皆さんにも推進員となつていただいています。昨年12月には紀南協議会独自にカールドゲームを用いたSDGsの学習会を県センター協力のもと、開催しました。今後も地道に紀南地域に根ざし、より地域の実情に応じた草の根運動を行っていきます。



「成り立ち」

「ストップ温暖化岩出の会」は岩出市内の地球温暖化防止活動推進員が集まって2013年4月に発足し、行政と連携して自治体主催のイベントを中心に体験学習の場を提供しています。きっかけとなったのは、2008年6月に岩出市地球温暖化対策条例が施行され、同条例に基づき設置された岩出市地球温暖化対策協議会の構成員として、推進員が参加することになったことです。この時、協議会に参加した推進員が会の設立メンバーとなり、現在に至っています。

【歩み】

環境省が2013年2月に家庭部門のCO₂排出削減策として創設した家庭エコ診断制度を活用し、CO₂削減の診断・提案を精力的に行っていました。2015年、2016年には白浜町立体育館で行われた「ごみと環境フェア」（主催：白浜町）にブースを出展し、白浜町内の

「地域に貢献する」 活動を続ける【】

市民ふれあい祭りには、岩出市役所からイベントへの協力要請を受けて、2013年3月から出展しています。2020年は、新型コロナウイルス感染症のため中止となりましたが、親子で楽しむ環境教育をテーマ



おもしろ環境まつり出展



熱エネルギー差発電装置を体験する子供たち

豪雨や酷暑など、地球温暖化の影響が顕在化しています。地球温暖化防止に向けた取り組みは、一朝一夕で効果が出るものではなく、日々小さな努力の積み重ねによって少しずつ成果が見えてくるものだと考えています。今後地域において草の根運動を展開していくと考えています。



更新した梅の木を回収

SDGsカードゲームとは

SDGsカードゲームには3種類あります。そのうち養成講座で行っているのは、「2030SDGs」と「SDGs de 地方創生」の2種類です。



2030SDGsカードゲーム

プレイヤーが世界の国の代表となり、資金と時間を使って様々なプロジェクトを実施していくゲームです。プロジェクトを進めると「経済」、「環境」、「社会」の3つの指標が変化していきます。各自に与えられた目標と、3つの指標のバランスのとれた社会を全員でつくることを目指してゲームを進めます。

SDGs de 地方創生カードゲーム

プレイヤーは街の住民と行政担当者です。互いに協力しながら街づくりをしていきます。2030と進め方は似ていますが、こちらには「若年人口」、「経済」、「環境」、「社会」の4つの指標があります。人口が増えるプロジェクトを行わないと、ターンが過ぎるごとに人口が減少し、行政に入る税収も減ります。それにより、住民は補助を受けにくくなり、プロジェクトの実施が難しくなっていきます。「どのようなプロジェクトを行うと人口が増えるか」を考えながらゲームを進めていくことがポイントです。

特集 2

SDGsを体験する

地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」という誓いを立てて、よりよい世界を目指す持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) に関連する取り組みが、県内各地で行われています。今回は、地球温暖化防止活動推進員養成講座の一環で行われた体験イベントを紹介します。

SDGs de 地方創生in田辺市民総合センター

9月7日、田辺市民総合センターで今年度5回目の推進員養成講座を開催しました。講師は赤岡誠さん。長く推進員活動をしている方や初めて講座に参加する方など合わせて8人でSDGsのカードゲームに取り組みました。このゲームは、参加者が「住民」と「行政担当者」に分かれ、住民プレイヤーが行政プレイヤーに働き掛けて予算をもらいながら、いろいろなプロジェクトを行い、経済や環境、社会が安定した街をつくっていくゲームです。経済や環境、社会が安定した街ができなれば、徐々に人口が減り、街が衰退していく仕組みになっています。

今回は、参加者の皆さんの感想を紹介します。「初めて参加したが、こんなふうにもみんなで協力して街づくりをすることができれば、現実でも、良い街をつくることのできる気がする。是非この体験を多くの人にしてみたい。」「私は15年前、このゲームで課題になっていたような若者の減少を防ぐため、移住を推進す

る事業に携わっていた。15年経って、その頃小さかった移住者の子供たちが成長し、また地域外へ出て行ってしまったという現実と直面しており、どうすれば継続的に若者が住んでくれるのか、再考するきっかけになった。」「本当の街づくりはゲームのように簡単にはいかないけれど、行政と住民で、これからの地域に何が大事かを気軽に話し合い、一緒に街づくりをしていきたい。」

参加者は、このゲームに参加すると、「みんなで協力していくことの大切さ」に気付くといいます。ゲームの中では、1人のプレイヤーが「協力してほしい」と声をあげると、ほかの人が集まり、プロジェクトを行うときに必要な人材を譲り合ったり、資金協力をしたりします。このような助け合いの活動の中で、「協力すると大きな力が生まれること」を感じ、「達成感」を味わうからです。ゲーム後には、東日本大震災で大きな被害を受けた南三陸町で、漁師の皆さんが協力して



ゴールに向けて参加者同士で活発な意見交換

街づくりをうまく軌道に乗せた事例なども紹介されるため、「やればできる」という認識も生まれ、前向きに「みんなで取り組もう」という気持ちになります。

皆さんに、「協力し合えば大きな課題も改善したり、解決したりできる」という気持ちになっていただけるよう、これからもこの活動を続けていきます。

今回の記事を読んで、是非SDGsカードゲームを体験してみたいと興味を持たれた方は、県センター (073-499-4734) まで御連絡ください。講師の派遣や講座実施の相談に応じます。

イシューマップを作ろう！ in那智勝浦町体育文化会館

6月20日、那智勝浦町で今年度初めての推進員養成講座を開催しました。講師は昨年に引き続き、赤岡誠さんです。講座には、今年度から推進員になった方や初めて参加する方など合わせて10人が参加しました。今回は、「密」を避けるということと、昨年度実施してきたSDGsのカードゲームをさらに発展させ、具体的な行動に落とし込むことを目的に、ゲームでなく、SDGsイシューマップの作成に挑戦しました。

まず、個人で自分が考える社会的な課題を「付せん」にいくつか書き出し、それを2つに別れた5人の班の中で共有しました。その後、それらの課題を模造紙の上でグループ分けし、班として議論を深める課題を1つ選びました。そして、その課題の原因や関係性を考えました。

1つの班は、解決したい課題として「人口減少」を選び、次のように事象がつながって負のスパイラルとなってい

ると考えました。(人口減少→高齢化・労働力の減少→地場産業の衰退→都会のごみ捨て場問題→住みにくい環境→人口がさらに減少) そこで、次のように考えて解決法を探りました。まず人口を増やすには、都会に集中している人口を分散させることが第一歩であると考えました。そのためには、「地方が子育てしやすい環境や収入の安定する職場を作り、住みやすい街となることが必要ではないか」と話し合いました。具体的に話が進むと、「今は情報通信ネットワークの発展により、地方でも都会と同じ情報を得ることができるようになった。そのため、地方で働くことも十分可能となっている。」「豊かな自然など地域の資源を活用した産業で地域の活性化を探ることができる。将来的に都会との間で二酸化炭素の取引制度を作り、それで得た財源で新たな起業家を集めることもできるのではないか。」「地方では待機児童の問題はな



地域課題を出し合ってマップづくり

いので、住居を提供できれば人口増加は見込める」と白熱した議論になりました。

最後には、自然豊かな場所での人の交流が増えれば、引きこもりなど心の課題も改善するかもしれない話は盛り上がり、予定していた時間はあっという間に過ぎました。各々が情熱を持って議論し、互いの意見を認め合う姿を見て、温暖化の問題も皆さんの協力できっと改善していくと確信した1日となりました。



干潟の生き物を探る子供たち

和歌浦小学校が環境大臣賞を受賞

り組んできました。この活動は、小学校の伝統となり、現在では学年を問わず、希望する学年が清掃を行っています。

それに加え、平成27年からは、和歌浦干潟に昔のように多くのアサリが戻ってくるように、「あさり姫プロジェクト」に参加しています。取り組むのは小学3年生。干潟で生き物の観察会を行って地域の自然に親しみ、その後、教室で干潟についての学習をします。学習後は、地域のボランティアの方の協力も得ながら「なよ竹部屋」を作ります。「なよ竹部屋」とは、食害からアサリを守り、育てる竹筒です。「なよ竹」の中に居た「かぐや姫」にちなんで竹筒を「なよ竹部屋」とし、中のアサリを「あさり姫」と見立てたことが、プロジェクト名の由来となっているようです。

毎年、年明けには、実際に竹筒にアサリの稚貝を入れて干潟に設置していま

す。今回の受賞に際し、このプロジェクトに協力している県環境学習アドバイザーの平井研さんは、「将来アサリが豊富な干潟になったときに、自分たちが活動したからだ」と充実感を味わってほしいと思っています。」とコメントを寄せてくれました。

松尾校長は、「今までの活動が評価されてうれしい。ここまで継続して活動できているのは、小学校を取り巻く漁協の方を含めた地域の方の協力があってこそです。今後も環境学習に力を入れ、自分の住む地域を好きになり、大切にしてくれる子供を育てていきたい。」と話されました。

全国的に見ても非常に貴重な干潟が残っている和歌浦地域の自然環境が、今後も児童だけでなく、保護者や地域の皆さんと連携して保全されていくことを祈りたいと思います。

和歌山市立和歌浦小学校が環境大臣賞「地域環境保全功労者表彰」を受賞しました。地域環境保全功労者表彰は、地域環境保全の推進のため、多年にわたって顕著な功績のあった人や団体を、環境大臣が表彰するものです。本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京での表彰式に代えて、同校にて県環境生活部の田中部長から松尾校長に表彰状等の伝達が行われました。

和歌浦小学校は、平成18年頃から地域のすばらしい自然環境を守るよう、保護者や地域の方々や片男波の清掃活動に取



ゲームを終えて解説を聞く参加者

6月27日、御坊市で第2回推進員養成講座を開催しました。講師は推進員であり、県の環境学習アドバイザーでもある平井研さんです。受講者は、今年度から推進員になった方を含む10人で、初めてカードゲームに参加する方も多く、平井さんから丁寧な説明を受けた後、ゲームに取り組みました。前半では各自に与え

2030SDGsカードゲームin御坊市中央公民館

られた目標を達成することのみに気持ちが行きがちでしたが、後半では全体を見渡して支え合う姿が見られ、最終的に「経済」、「環境」、「社会」のバランスのとれた世界をつくることができました。ゲームの最中、皆さんから「時間がない」という声を多く聞きました。ゲーム内でプロジェクトを進めるためには、「資金のカード」と「時間のカード」が必要で、今回は「時間のカード」が足りずに、なかなか進まないということでした。

ゲーム後、振り返りの時間で平井さんから「現実の世界も同じで、2030年まで残された時間は10年です。ただ、今日の結果からも分かるようにお互いが助け合うことができれば、時間がなくても理想とする社会をつくりだすことができます。」と説明がありました。最後に全員

で1992年「環境と開発に関する国際連合会議」でセヴァン・カリス＝スズキさんが行ったスピーチを聴き、平井さんが次のように締めくくりました。「当時セヴァンさんは12歳でした。そして、昨年、国連気候行動サミットでスピーチしたグレッタさんは16歳です。つまり若者が将来の環境に不安を持つ状況は変わっていないのです。子供たちが地球の将来に不安を抱くことなく過ごせるよう、みんなで協力していきましょう。」

※2015年、ニューヨーク国連本部において、国連持続可能な開発サミットが開催され、150を超える加盟国首脳が参加のもと、その成果文書として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。「2030」という年はこの宣言の目標年度を表します。

10年ぶりに新しい県立自然公園「大塔山県立自然公園」が誕生!

和歌山県には、山岳や高原、滝、渓谷、海岸などの優れた自然の風景地がたくさんあります。「自然公園」は、これらの優れた風景地の保護と利用を推進するとともに、そこで生きる野生の動植物を保全することを目的として、指定するものです。

本県では、これまで11の県立自然公園を指定していましたが、本年5月に新たに「大塔山県立自然公園」を12か所目として指定しました。当公園の面積は9,968haで、県立自然公園としては県内最大となります。

大塔山県立自然公園は、大塔山と法師山を主峰に多くの山々が連なり、紀伊半島南部の中核をなす山岳地帯を形づくっています。また、落差の大きい滝や廊下と呼ばれるY字状の渓谷（V字谷がさらに下方浸食されY字になった谷）など特有の地形が見られ、水と緑が織りなす県内屈指の絶景が広がっています。

県内の森林の中で、自然林は約1/3ほどしか残っていませんが、大塔山県立自然公園には、その自然林がまとまって存在しています。また、大塔山山頂には、本州南限として貴重な「ブナ林」が広がっているほか、サクラ属として約100年ぶりの新種として発表された「クマノザクラ」が広く分布しています。動物では、国指定特別天然記念物である「ニホンカモシカ」なども生息しています。県内にある優れた自然やそれが育む地域固有の野生動植物を守ることはとても大切なことです。是非皆さんには当地域を訪れ、改めてその大切さを考える機会にさせていただきたいと考えています。コロナ禍で閉塞した日常を離れ、大自然の中で英気を養われてはいかがでしょうか。



紀伊半島の特徴的なブナ林が広がる大塔山

南紀熊野ジオパークセンターの展示内容をリニューアルしました!

・化石展示

センターではエリア内で見つかった化石を展示しています。海の中でできた南紀熊野の大地には、貝やヒトデなど多くの種類の化石が見つかっています。化石は、その地層ができた時代や当時の環境を私たちに教えてくれる貴重な資料です。右写真は串本町で見つかったヒトデのなかまの化石です。

・デジタル地球儀（ダジック・アース）

球面スクリーンにプロジェクターで地球を投影するデジタル地球儀を導入しました。プレートが動くことによる地震や火山活動といった地学現象、地球表層の海流の流れや雲の動きまで様々な情報を分かりやすく知ることができます。

・来館者の安全対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者の体温が一目で分かるサーマルウォッチャーを導入しました。他にも消毒用ハンドジェルの設置や換気の徹底など、安心して館内を見学していただけます。



推進員
精ちゃんの

ああしたら こうなった

6回シリーズ

海の向こうで「持続可能な暮らしづくり」奮闘記 ⑥ 最終回

<任期を終えて>

JICAの海外シニアボランティアとしての2年間は、あっという間に過ぎました。最初は、日本と違う文化や環境の中での生活に戸惑うこともありましたが、フィジーの人々のおおらかで細かいことを気にしない性格のおかげで、職場でもリラックスして過ごすことができました。ただ、その分、廃棄物処理計画の策定が遅れることとなりました。最終的には随分と彼らをせかし、何とか任期内に策定することができました。そのほか彼らとは環境教育の発表会やアースデイのイベントにも一緒に取り組みまし



環境教育の発表会

た。また、週末にはゴルフやテニスなど、いろいろなスポーツを楽しむことができました。フィジーの人々やJICAのサポートのおかげで、私の2年間の生活は公私ともに本当に充実したものになりました。ここに支えてくれた皆さんへの感謝の気持ちを示し、この奮闘記を締めたいと思います。

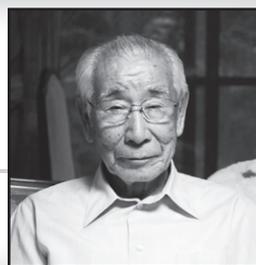


アースデイイベント

このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

松っちゃんの

推進員さん^{ひよっこ}の訪問記[®]



和歌山市 永山久晴 さん

和歌山市にお住まいの永山久晴さんは推進員第4期生。和歌山市生まれの和歌山市育ちで、京都の大学を卒業後、大阪の家電販売店に就職、3年後に独立して家電販売店を開業しました。長年営んだ後、縁あって大阪のエアコン製造会社に管理職として再就職し、62歳まで勤めました。現在は環境関連のボランティアとして日々活動をしています。

永山さんは和歌浦東の自治会長を12年間務め、アルミ缶や段ボール、ペットボトルなどの資源ごみの分別回収に取り組んできました。永山さんは、特にアルミ缶のリサイクルに力を入れたとのこと。アルミはボーキサイトから製造すると膨大なエネルギーを必要としますが、再生すればほんの少しのエネルギー消費で済み、環境への負荷が低減されるからだそうです。また、ごみの3割削減をうたった和歌山市の一般廃棄物処理基本計画の策定(※)に加わったといいます。長年、自治会長を務めた経験から、「ごみ置き場のマナーが少し悪いように思う。ごみ置き場が常にきれいに保たれているのは、周辺の人々が何も言わずに掃除をしてくれるから。そのことを忘れないでほしい。」と思いを語りました。

推進員への応募動機は、地球温暖化が進む現状に危機感を持ったからとのこと。さらに推進員養成講座を受け、温暖化の状況がよく分かり、自分自身でも何とかしなければいけないと思ったとのこと。推進員の委嘱を受けた後は、同じ推進員同士で何かやろうと話し合い、5期生の伴場紫朗さんたちと6人で活動グループ「エコアミーゴ」を立ち上げました。以後、そ

の仲間とともに工場見学や学習会を行っており、継続的に月1回の会合を開いています。和歌山市の推進員グループ「サステナブルフォーラムわかやま」の活動にも参加し、その中で数々の行事でブースを出展してきました。おもしろ環境まつりなどのイベントで、子供たちを対象にした「環境クイズ」や「火起こし実演」、チラシで作った人形で相撲を取る「トントン相撲」などを披露し、子供たちを楽しませてきました。

家庭では、ごみ3割削減の実践に取り組んできました。特に毎日出る生ごみは堆肥にしています。今ではその肥料で育てた花々のプランターや鉢類が、庭に所狭しと並んでいます。そのほか、節電や節水にも気を配り、移動でも自転車やバスを利用し、車には乗らないともいいます(必要時には奥さんに乗せてもらい、運転免許はすでに返納とのこと)。

永山さんは、二酸化炭素の排出量がほかの発電に比べ10倍以上であり、減らすことが求められることで話題となっている石炭火力発電所について、もっと以前から早く削減すべきだと常に考えていたそうです。

長年にわたって仲間とともに地域で活動を積み重ねてきた永山さんからお聞きしたこれまでの取り組みや、熱い思いは見習うべきことが多く、これを皆さんで共有し、これからも地球温暖化防止に取り組んでいこうとの思いを新たにしました。

(※) 和歌山市は一般廃棄物処理基本計画で、令和2年度までに平成22年度比で1日1人当たりのごみ排出量(資源ごみは除く)を約30%削減という目標を掲げている。



なるほどザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 34

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

「パーム(ヤシ)油」

今から20~30年前に「自然にやさしい石けん」という言葉をよく聞いたものでした。多くの石けんの原料は、アブラヤシの果実から採取されるパーム油です。インスタントラーメンやポテトチップス、スナック菓子、アイスクリームにも原料として多くのパーム油が使われています。このように、パーム油は私たちの暮らしに非常に身近なものとなっています。安価なパーム油があるからこそ、様々なものを今の価格で購入できていくわけです。ところが、パーム油の多くが、気候変動防止において重要な役割を担っている熱帯林を伐採し、焼き払い、その後大規模農園を造成して栽培したアブラヤシから生産されています。児童労働の許しがたい問題もあると指摘されています。「安い」の裏側にはカラクリがあるのです。

WWF(世界自然保護基金)は、仮にパーム油を世界から排除した場合、現在のパーム油に匹敵する量の油を菜種や大豆など他の作物から採ろうとすると、もっと広い土地が必要になり、さらなる森林破壊が生じる可能性があるとして指摘しています。現時点で、パーム油ほど生産性が高い、つまり狭い土地で植物油を生産できる植物が存在しないからです。だからこそ、環境や地域社会に配

慮した「持続可能なパーム油」の生産と消費が重要だと位置付けています。その一つが国際組織RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil: 持続可能なパーム油のための円卓会議)の設立です。日本の大手食品メーカーも参加しています。

俳優で国連のピース・メッセンジャーのレオナルド・ディカプリオさんは、2015年にドキュメンタリー映画「地球が壊れる前に」に出演し、パーム油問題をセンセーショナルに紹介しました。映像に映し出された哀れなオランウータンの姿には心が痛みました。オランウータンは、農園開発が原因で住む所を奪われたのでした。ディカプリオさんは「スナックなどを食べるなどかパーム油製品を不買せよと言っているわけではない。だけど、食生活を少し変えることなら、さほど難しくはないはずだ。あなたが1品を別のノンフライの食品に置き換えるだけでも問題の一部は解決する。何品も変えられるなら、それは大きな問題解決につながる。健康にも良いかも知れない。」と主張しました。

問題の本質は、世界的な油脂の消費過多と、それに伴う油脂植物の大量生産にあるわけです。ところが、油の需要は増加の一途です。食生活の変化が大きく関わっています。パーム油に関わる諸問題は、巡り巡って気候変動問題にも連動しています。ディカプリオさんの主張「食生活を少し変えることなら、さほど難しくはないはずだ。」という言葉は、気候変動防止においても意味があるわけです。

イベント情報

YouTube情報番組

「和くらす～持続可能な暮らしのヒント～」公開中!

- ◆県内を中心に地域の「持続可能な暮らしのヒント」を動画で紹介しています。
- ◆視聴者がコメントを重ねることで、さらなるアイデアや工夫が生まれること間違いなし!

ただいま情報を大募集中! 例えば・・・

- 「持ち帰り包装に気を配っているイチオシのお店」
 - 「地元のお祭」「子供向けのイベント」
 - 「仲間と一緒に海辺でのビーチクリーン活動」
 - 「火を使わずに美味しく食べられるお気に入りの時短レシピ」
 - 「自宅でエネルギーを賄う装置を開発している人」
- これらはあくまで一例です。「これは!」と思う情報があれば、どしどし県センターまでお知らせください。



チャンネル和くらすへのアクセスはこちら



情報紹介フォームはこちら



冒険ストーリー進行中! 「うみわかまもる」プロジェクト

和歌山生まれのアオウミガメ「うみわかまもる」くんが、海ごみをなくすため、旅に出ています。海の現状や、なぜ海ごみが存在するのか、その秘密を解き明かす冒険の旅の記録を動画で紹介しています。海ごみのないきれいな海を取り戻すため、クリーン活動を始め仲間を増やしていきましょう。まずは動画サイトを御覧ください。



まもるくんと一緒にビーチクリーン



うみわかまもる動画サイト



うみわかまもるwebサイト

YouTubeで「うみわかまもる」で検索

動画サイト・WEBサイトの登録をお願いします。

おもしろ環境まつり 2020 オンライン開催

2020年12月6日(日) 10:00~15:00

今年はインターネットで集い、エコなイベントを実施します!

詳しくは⇒おもしろ環境まつり公式サイト <https://wenet.info/ok/>



あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト イベント情報も随時更新

県センター通信

世界中をコロナ禍が覆う中、県センターでは、上記で紹介した新たなプロジェクトを開始しています。このような状況だからこそインターネット上での動画を使った情報発信です。テレワーク、オンライン授業、バーチャルなイベントなど社会ではインターネットを活用した「動画で伝える」という手法が一気に普及しました。県センターも動画を積極的に活用し、様々な取り組みや出来事を紹介していきます。そこから得られる身近で具体的なヒントを皆さんで共有することで、新たな活動や人の輪が少しずつ広がることを期待しています。「私たちの取り組みをもっと多くの人に知ってもらいたい」という方は、是非県センターまで御連絡ください。県センターが取材し、情報発信のお手伝いをいたします。

